

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

[はじめに]

本校は、金沢市の東南部寺町台に位置し、明治9年4月に在明小学校として開校、昭和34年4月十一屋小学校と改称し現在に至る。全校児童数は425名、教職員は35名である。

学校の東に流れる犀川そして医王の山並みは四季折々の表情を見せ、子どもたちにとって自然を身近に感じられる環境にある。

一昨年度、ユネスコスクールの認定を受け、環境や伝統・文化を主要テーマとして持続発展教育の実践に取り組んでいる。

「人と地域を大切にし、共につながり合おう！」
～校区、金沢の魅力発信！！～

(1) 1年生（生活科）

「金沢の遊びを知ろう」（地域教育）（伝統文化）

旗源平という金沢伝承の遊びや昔から伝わる日本の遊びを経験させることで日本の文化の良さを感じてほしいと考え、本テーマに取り組んだ。

まずは、地域の昔遊びの名人を招いていろいろな遊びを教えていただいた。そして、もっと上達したいということで、上手な友達からやり方や技、こつを教えてもらって遊んだ。

遊びの経験のみで終わるのではなく、地域の方とふれあういい経験にもなった。

(2) 2年生（生活科）

「十一屋町探検をしよう」（地域教育）

生活科を中心に、自分たちの町を探検することで、校区の自然に親しむと同時に、町の人と様々な関わりを持ち、自分たちの町の良さに気付かせたいと考え、本テーマを設定した。

まず、校区内のお気に入りの場所や人を伝え合った。その後、その地域に住んでいる児童がミニ先生となり、地域のことを紹介しながら探検を進めていった。そして、探検を通して発見したことをもとに、写真入りの本を作成した。これらの活動を通して、地域の人や場所との関わりを深めることができたと考える。

(3) 3年生（総合的な学習の時間）

「金沢の伝統を知ろう」（地域教育）（伝統文化）

茶の湯文化が息づく金沢市では和菓子作りが盛んであり、十一屋界限においても複数の和菓子店が軒を並べている。本市を代表する和菓子作りや金沢城近辺に目を向け、それに携わる人々や地域の様子を調べることで、自分と地域との関わりに気付かせたいと考え、本テーマを設定した。

後期は金沢城公園近辺を遠足のコースの一部に設定して、自分たちの住む金沢の良さや伝統に気付かせた。また、校区で和菓子店を営業している方にスポットを当て製造工程を調べるとともに、学校にその方をお招きし、いくつもの質問を通して、和菓子にかける思いやこの地域に和菓子店が多い理由を知ることができた。後期は町の名前の由来を調べたり、自分たちの住む地域のことをよく知る方を招いて昔の校区の様子を聞いたりしたことで、僅かではあるが、郷土への親しみが増したように感じている。

(4) 4年生（総合的な学習の時間）

「地域の高齢者の方と交流し、よさを学ぼう。伝えよう。」（福祉教育）

大きな団地をかかえる本校区には、高齢者、外国人、一人暮らしの人、あるいは障害を持つ方々が暮らしている。高学年の仲間入りをし、少しずつ周りのことが見られるようになってきている児童たちは、その存在に気付き始めている。いろいろな立場の人たちに目を向け、お互いの違いを認め合い支え合う大切さに気付き、共に生きる意味について考える機会とな

るよう本テーマを設定した。

授業では福祉の意味（交流を通して自分を含めたみんなの幸せを求める活動であること）ボランティアの意味を知り、自分に何ができるのかを探した。そして、自分たちの周りにはいる高齢者の方に対してどのような活動をするよいかを考えた。5月の運動会への招待状渡しに始まり、地域の高齢者の方をお呼びして、自分たちのできるようになったことを伝えたり、一緒に活動したりすることを通して言葉を交わし、たくさんの方の事を学ばせていただいた。高齢者の方に楽しんでもらうとともに、自分たちも楽しいひとときを過ごすことができたと思われる。

(5) 5年生（総合的な学習の時間）【ESD 実践授業】

「平栗の未来を考えよう」（地域教育・環境教育）

本校区が一番遠い場所に「平栗地区」という場所がある。今は平栗地区から通う児童はいないが、昔は分校があり、分校がなくなった後も徒歩やバスで十一屋小学校まで通っていたそう。そんな平栗地区は、ギフチョウやカタクリといった稀少生物が有名で、金沢市自然環境保全区域に一番に指定された場所である。しかし、住民の高齢化が進み、問題を抱えた地域でもある。



そこで、住民の高齢化の問題、近くの産業処理施設の問題、環境問題など様々な視点から、地域を大切にしようとする気持ちや、問題を多面的にとらえる力、コミュニケーションを行う力を養いたいと考え、本テーマに取り組んだ。

授業では、春と秋と2回現地を訪れ、町の人にインタビューをしたり、自然について詳しく教えてもらったりした。また、金沢市環境政策課の方をゲストティーチャーとして招き、金沢市自然環境保全区域のことについても学習した。校区の持続可能性という大きなテーマではあったが、平栗町会長の方がこの子どもたちの学びを大変喜んでくれ、二度の調査ともあたたかく迎えてくれた。だからこそ、子どもたちは「平栗の未来は自然がいっぱい残っている。」「平栗はなくなってほしくない。」など平栗に住んでいる人の気持ちを大切に、学習を進めることができた。このように、現地の自然に触れたり、平栗地区の方々の温かさに触れたりしたことで、平栗地区を大切に思う児童が増えたことや、真剣に平栗の未来を考える児童が増えたことが何よりも大きな成果だと捉えている。

(6) 6年生（国語科）（総合的な学習の時間）

「金沢の良さを発信しよう」（地域教育）

新幹線開業によって増えた今まで金沢を訪れたことがない観光客に金沢の魅力を発信するべく本テーマを設定した。まず、遠足の中で下見をし、それぞれの興味関心に合わせて6つのエリアに分かれてバスに乗って取材に行った。授業の中では、取材したことを元にタブレット型端末とアプリを利用して完成度の高いパンフレットを完成することができた。そのパンフレットを金沢に修学旅行へ訪れる埼玉県加須市立大桑小学校に送り、自主プラン決定の際に活用してもらった。実際11月に修学旅行に来県した際も金沢駅まで出迎えに行き初めて交流することができた。修学旅行後実際に回った感想など手紙のやりとりをし、金沢の魅力を伝えられたと実感できた。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

)